

# 星の夢百聞

～ 第 163 号 ～

発行日:2019年 9月1日

発行:有限会社 おいらーく

札幌市東区北 25 条東 20 丁目 7-1

発行人:星野 二三江

## 第14回おいらーく サマーフェスティバル!!

8月18日(日)元町ケアサポートセンターにて、サマーフェスティバルが開催されました。前日まで大型台風の北上で天気が心配されましたが、当日は好天に恵まれました。

焼き物、揚げ物、生ビール等、美味しく味わって頂けたと思います。また、フリーマーケットも、近所の地域の方や美映からも参加されました。今年も、小樽商科大学生のアカペラやピエロのポニーさんが参加され楽しんで頂きました。

ゲーム、盆踊り、抽選会等で地域の方にも参加して頂いたり、元町の入居様で、いつもベットで過ごされている4名の方が、それぞれご家族や職員と一緒に、陽射しを浴び、食事は食べられませんが、祭りの雰囲気を感じて頂く事ができ、ご家族の喜ばれていた笑顔が印象的でした。

来年は、もっと地域の方にも多く参加して頂けるよう職員一同知恵を絞りたいと思います。



えくぼ元町

藤田 善子



# 行事

## 豊生会 夏祭り!

令和最初の東苗穂病院夏祭りが8月1日に開催されました。暑さが続く中、たくさんのお客様が来場され、販売ブースは毎年のことですが長蛇の列で大盛況でした。

我がおいらーくも、本部会議のみなさま中心に一致団結して準備し、二日がかりで仕込んだ高級アルゼンチン赤エビを使用したエビチリと、ジャガイモを丸ごと使ったトルネードポテトで出店しました。

星野理事長のあいさつを合図に、販売開始!、直後から、長蛇の列ができて売れ行きは好調です。

約900匹のエビを使用した大鍋二杯のエビチリは、気前のいい採算度外視の特盛効果もあり、約1時間で売り切れしました。

予想以上の大反響のトルネードポテトは、専用カッターでその場で仕込んだむきたてのじゃがいもを、揚げたてで提供しました。揚げたて提供の為、少々お時間いただきましたが、用意した200個のじゃがいもは、終了時間の30分前には完売し、双方、ご希望のみなさま全員に提供できなかったのは残念でしたが、ご購入のみなさまには喜んでいただけたと自負しております。

毎年、工夫したメニューで出店を続けるおいらーくのお店は素敵だなと感じました。

ご来場で、お買い上げいただきましたみなさま、ありがとうございました。来年もよろしくお願ひ申し上げます。



総務 尾川真一

### 【認知症ケア】

#### 帰宅願望場面における

#### ダイバージオナルセラピー

帰宅願望とは一般的に帰宅の要求を頻繁にしたり、実際にデイサービス等の施設から帰宅をしようと外に出ていこうとすることです。

帰りたいたいという想い自体は誰でも抱くものですから、帰りたいたいということ自体は問題ではないはず。知らない場所や知らない人が周囲にいれば不安になり、その場から逃げ出したいと思えます。自分がいる場所ではないと思えば、自分を受け入れてくれる場所へ行こうとすることは、当然のことと思います。また、帰りたいたいところは、家だけとは限りません。生まれ育った故郷だったり、親しい家族や兄弟の所かもしれない。

重要なことは、帰りたいたいという要求や外に出ていこうとする行動には、本人なりの理由があり、人によって様々であるということです。帰りたいたいという言葉の裏にある本当の思いを理解して対応することが必要です。

帰宅願望に対するダイバージオナルセラピーの目標は、  
①不安や焦りを緩和すること  
②帰宅要求の頻度が減り、表情が和らぐこと です。

私たち、てんやわんや本町では帰宅要求のある方が、前述した①②に向かうよう個人が集中して参加できる活動を提供しています。その活動は人それぞれで、カラオケ・麻雀・囲碁・調理・洗濯物たたみ・洗濯物干し・雑誌、チラシ、写真を見る。等々です。行動を抑制せず個々の活動に導いて、帰宅要求を他に向けて頂けるよう取り組んでいます。

てんやわんや本町 岸本 英明





## 群馬デイトレセンター研修報告

<研修を終えて、考えること>

デイサービス事業では、認知症ケアを必要とする人、自立支援の機能訓練を求める人など、ご利用者さんの要介護度や症状によって、ニーズのパターンが異なる。ケアマネジャーとしても日々、個々のニーズに応えられるよう努力しているが、要介護5の方と要支援1の方が同じメニューを実践できる事は中々難しい状況であると日々感じている。

しかし、(制度上)事業所側からすると、運営の安定を図る為、収益単価の低い軽度者を制限してしまう事も現状としての課題であり、今改正でもアウトカム評価が追加されたが、6単位/3単位とまだまだ十分なものとは言えない。保険外サービスの導入の必要性はそこにあると思います。

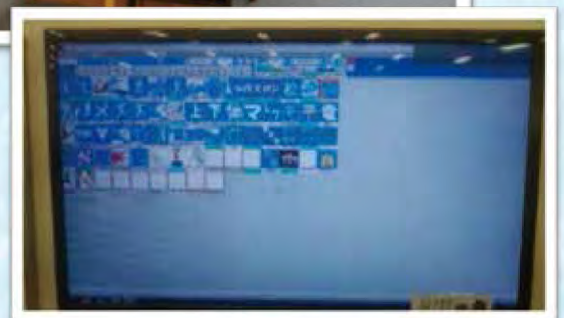
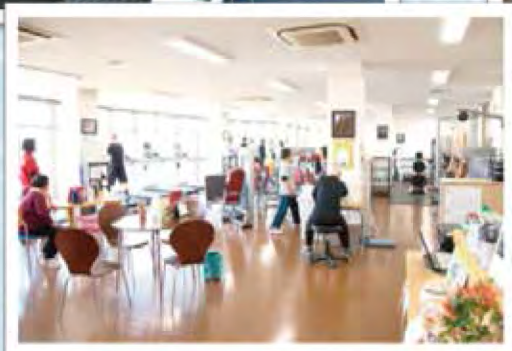
国は医療費増加を抑えようと、医療保険が適用されるリハビリの期間を制限。脳卒中などの病気がある患者の場合は、最大180日で1日当たり3時間などと規定。さらに今年4月から、介護認定を受けた人は、医療保険が適用される外来リハビリを利用できなくなった。また、医療機構が令和元年6月28日、2017年度の通所介護の経営実態を分析した最新のレポートからも、通所介護の経営が難しい状況(特に小規模事業者の赤字が著明)が読み取れる。

また、今後の介護保険改定では、更なる給付制限が進められ、要介護1.2の方々も給付対象から外れる方向で国の議論が進められている。

こういった動向を踏まえながら、【施設ごとの特色を強調し、集まる施設・事業所作り：介護保険収入に頼らない事業所】【保険外で全額自費負担でも集まってくる魅力ある事業所作り：公的保険では足りないとする利用者さん】を結ぶ為、【一人一人に合わせたリハビリを、根拠を持って提供していく】為のツールを検討していく必要があると思います。

今回は、大変貴重な研修機会を与えて下さり有難うございました。

居宅介護支援事業所フォルテシモ 広部 毅





第52弾!

# ドラムす子でバチ当たり人間のよもやま話

早くも北海道の短い夏が終わろうとしている。夏を満喫するには海だろ。私の住む小樽は蘭島、塩谷、朝里、銭函などの海水浴場に恵まれている。家の近所のオタモイ海岸は石浜で泳ぎには適さないが、磯遊びには最高だ。だが、はしゃいでばかりもいられない。今この海が大変なことになっているらしい。

それは海洋の汚染問題だ。汚染には原因がいくつもあるが、危惧されるのは海洋プラスチック。既に世界の海に存在していると言われるプラスチックごみは、合計で1億5000万トン。そこへ少なくとも年間800万トン（重さにして、ジャンボジェット機5万機相当）が、新たに流入しているらしい。想像を絶するすさまじい量だ。プラスチックごみの影響により、魚類、海鳥、海洋哺乳動物などの生物が傷ついたり死んだりしているそうだ。

やっかいなのは一度放出されたプラスチックごみは容易には自然分解されず、多くが数百年間以上もの間、残り続けることだ。海洋に投棄されたプラスチックゴミはやがて微細なマイクロプラスチックとなり、食物連鎖を通じて多くの生物に取り込まれることになる。そこには有害物質が含まれる可能性もあるのだ。

手軽で耐久性に富み、安価に生産できることから、私達の生活はプラスチックであふれている。コンビニで弁当を買えば、弁当容器はプラスチック、割り箸もお手拭きもプラスチックに包まれ、レジ袋も当然プラスチックだ。飲み物を買ったところちもペットボトル。スーパーに行けば豆腐も納豆もこんにやくもプラに包まれ、肉も魚もトレーに乗り上からラップだ。調味料も菓子もパンも。食物だけではない、洋服から紙おむつ、自動車や建築資材にいたるまで生活のあらゆる場面に使われている。そしてほとんどのプラスチックは再利用されず、破棄されたものは河川から海に流れ込む。

世界経済フォーラムは、2050年にはプラスチック生産量はさらに約4倍となり、「海洋プラスチックごみの量が海にいる魚を上回る」という予測を発表している。また日本近海でのマイクロプラスチックの濃度は、世界平均の27倍にも相当するという調査結果もある。

環境悪化のツケは結果めぐりめぐって私達に帰ってくるのだ。地球温暖化とともに海洋汚染は人為的である。私達は石油製品に頼った現在の生活のありようを考え直すべきだろう。悪意あるプラごみに比べたら、私が海につきり尿意をもよおし、いたしてしまっただけなど咎められようもない。正に水に流れた行爲だ。だがこれも立派な汚染か？まずはそこから改めよう・・・とほほ。



## 行事

### 流しそうめん

生きがいサロン銭函夏の恒例行事である「流しそうめん」を行いました。早いもので生きがいサロン銭函がオープンした年から始めて今年で4回目になります。利用者さんの中には4回とも参加している皆勤賞の方もいます。1回でも流しそうめんを経験した利用者さんは、中々すくえない難しさと、すくえた時の楽しさを忘れられないようで、毎年利用者さんから今年はいつやるの？とおっしゃり、気が早い利用者さんに関しては雪が解けるか解けないかぐらいからいつやるの？と聞いてきます。もちろん初めて流しそうめんをする利用者さんもおり、流しそうめん経験者の利用者さんが事前にうまくすくえるコツをアドバイス。そして必ずトマトやゆで卵など取りづらい物を流す職員の意地悪さも忘れずに説明しています（笑）。

そして、いざ流しそうめん実行の日！利用者さんは朝デイに到着するなり、何時からするの？何か手伝うかい？等おっしゃり、麺類をゆでてくれる利用者さん、うまくすくうために、お豆ちゃんというトリムで箸の使い方を練習する利用者さん。テーブルや椅子、ブルーシート設置等、会場の準備を手伝ってくれる利用者さん。職員と利用者さん一体となって準備！頼もしい利用者さんばかりです！

そして準備ができ食べ始めると、うまくすくえる人は、すくえない人の為に、流れてくるそうめんを箸で塞ぎ止め、今のうちにすくいなとおっしゃり利用者さん同士助け合いながら、笑顔で楽しそうに食べていました。また来年も楽しく流しそうめんしましょうね！意地悪い職員はとりづらい物をまた考えます（笑）

生きがいサロン銭函 高屋 利啓



# 行事

## きらら・うらら合同夏祭り

8月25日 初めての「きらら・うらら合同夏祭り」を行いました。昨年は震災があり、急遽中止にて2年越しの合同開催となりました。

きららが主体となり企画や準備をしました。当日準備の段階では雨が降り、風も強く心配な中で行っていましたが、開催時間には天気も良くなり無事開催する運びとなりました。焼き鳥や焼きそばなどの軽食も沢山の方が購入していました。ほぼ完売にて大盛況！

うららも職員が早い時期から頑張り、手作りの物入れや写真立てなど気持ちを入れ込みました。きららの利用者様やうららの入居者様そしてご家族様にも「可愛い」や「上手に作るねえ」などお褒めの言葉を頂き好評でした。

そして今回はキリガミスト千陽さんや札幌よしもと笑劇団の皆様をお招きしました。千陽さんによる切り絵ショー最初はどんな物が出るのか会場の皆様もワクワクでいざ出来上がると龍だったり、子供が大好きなピカチュウなどたくさんさんの切り絵を披露してくれました。札幌よしもと笑劇団の皆様は時代劇コントをされ、子供も大人もみんな大笑いでとてもいい雰囲気のまままでお祭りを終える事が出来ました。また来年も今年以上の物を提供できる様に協力して行きたいと思えます。

うらら伏古 山本 亮太



### 朝礼でのステキなお話

#### 第3回

## 「物事の背景を見る」 えくぼ 中谷 竜平

現代社会において今や他人事ではない認知症。その方々と関わる上で、何の予備知識もない状態で見れば不可解な行動や言動に困惑した経験があるという方も少なくないと思います。それでも理解を深めることは出来ます。そして考え方が変われば心の負担も変わってくるはずで。

具体的にはまず、「どうしてだろう？」と疑問を持つことから始めることをお勧めします。例えばその時は疑問の答えを導き出せなかったとしてもその行為自体に意味があると筆者は思います。ふとしたきっかけで「そういえばあの時のあれはこういう事だったのかもしれない」と気づくときもあるからです。

次に背景を見ることが、物事を表面上だけで判断しないこと。言いかえれば相手の心を読むことです。相手に気持ちがかかればおのずとどう対応すればよいか分かり、それは必然的に理想のケアに繋がるわけです。

ただ言葉ではそう言っても実際には簡単なことではありません。それでも介護現場に携わっているうちに相手の行動を理解する上での基本的な考え方があることに気づきました。僕は認知症の方々と関わってきた中で、認知症は人をより本質的にする傾向にあるという印象を受けました。今回は行動の意味に着目し考えてみます。例えば、一人で歩くには危険がともなう利用者様が急に立ち上がり移動しようとしてしまう。僕らはその危険を意識していることからつい「危ないから立ち上がって欲しくない」と思ってしまうでしょう。

しかしこれは何か立ち上がる理由があつてのこと。自身が転倒し大怪我をするかもしれないということは本人にとっては重要ではないのです。目的があり移動したいと思つたから立ち上がった、ただそれだけのことなんです。他にも、排泄は。パット交換で対応している方が自らパットを外して汚染してしまう、なんてこともよくあります。そんな時「何をやっているの」と思ってしまうかもしれませんが、本人は汚れたパットをあるいはモコモコした異物に不快感がありそれをどうにかしようとした、ただそれだけのことなんです。

このように2つを例に話しましたが答えはこれに限らずたくさん出てくるはずで。そしてそれらの解答には正解と間違いが同時に存在します。なぜなら前提としてこれらの解答は仮説であり、僕らが知れるのは「おそらくこうであるだろう」と予測し選択した答えの結果しか知れず、他の選択肢の結果は見れないからです。

もちろん色々試してみようという手もありますが相手は人です。機械ではありません。加えて認知症は進行するものであり症状はゆっくりとしかし確実に変化していく。今日はこうでも明日は違うかもしれません。そんな中で毎回同じ条件の問題をくれるとは限らず、同じ問題は二度と来ないと言つても過言ではないのです。

そこが介護の難しさでもあります。行動の意味も理解すればどう対応すればよいかのヒントになるでしょう。それを判断材料に仮説と検証を繰り返していくしかないのだと思います。

# てんやわんや北31条から 土曜日営業開始のお知らせ



4月よりおいらーくで経営を引き継ぐことになった「デイサービスセンター てんやわんや北31条」も皆様のご協力のもと順調な運営をさせていただき、早くも5ヵ月を迎えようとしております。そこで、体制も整い当初より説明させていただいていた「土曜日営業」を9月より開始させ頂く運びとなりました。

まだご希望の利用者様も少なく、当面は外出の機会を増やす目的と屋外歩行の観点で、外出を行う1日にして行きたいと思っております。

もちろん、デイでの機能訓練や趣味活動、身体を癒すプログラムも変わらず提供させていただきます！

ご希望がある方は是非お問い合わせください。

**お問い合わせ先**  
**「デイサービスセンター**  
**てんやわんや北31条」**  
**TEL：011-721-8062**  
**担当：柴田**



赤井川村にある森のテラスにて、7月27日から28日の二日間に渡り、「豊生会グループ スキルアップ研修 in 赤井川宿泊研修」が行われました。

この研修は、豊生会グループと共同で毎年行われているもので、入職してから3年未満の職員計11人が、それぞれの事業所から選ばれ参加しました。札幌は蒸し暑く、北海道の夏らしくない天気が続いていましたが、赤井川村は札幌市内に比べ多少涼しく、2日間通して雨にも当たることなく研修を終える事が出来ました。とても自然豊かな場所で、昼間はハチがブンブン飛び回り、夜はカエルの合唱が賑やかでした。研修の内容は、豊生会グループ、及びおいらーくにはどのような事業所があり、どのような役割を持っているのか、又、どのように協力連携し運営されているのか、を学び、さらには、架空の利用者をモデルに、どのようなサービスの提供が可能か、皆で考え、発表し合いました。

そして長い長い夜には、ジンギスカン鍋を囲み、普段中々する事の出来ない話しを、一緒に研修に参加した者同士で沢山する事が出来、大いに盛り上がりました。

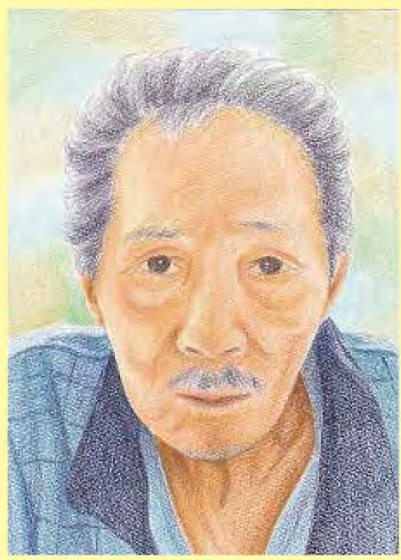
帰りには、森のテラスの管理人さんに案内して頂いた地元の直売所にて、メロンやスイカ、野菜等沢山のおみやげを購入し、赤井川村を後にしました。講師を務められた方々、事前又当日の準備をして下さった方々、ありがとう御座いました。

えくぼ東雁来 四反田 将明

## 赤井川村 グループ研修報告



# 特集! 人間万事塞翁が馬



似顔絵作: 松田 郁美

Fさんは北海道河西郡更別村香川区内にて9人兄弟の5番目(三男)として生まれました。ご両親は本州から開拓者として来道、農家を営んでいました。子供達は学校の時間以外は農家を手伝い、成長していきまます。

小学校6年生の時にダイナマイトを爆発させ開墾した根を取り除く様をみて、子供ながらに興味を持ちました。火薬を使うので危険と隣り合わせの仕事ではありましたが、「楽しかった」と笑顔で話されました。

1年ほど経ったころ、今度は自宅の修理をする姿を見て、大工の仕事に興味を持ちます。14才で親元を離れ新得町屈足へ移り、大工としてハンマー1本で50人の仲間と発電所の建設に携わるFさん。

5年間発電所の建設に携わり、20才で建設会社へ勤務。棟梁として精力的に仕をしていましたが、今度は日高へ転勤となります。

そこからは色々な現場で仕事のノウハウを学び、25歳、自宅の1室を使って建設会社を立ち上げます。また同年に結婚もされました。

ちなみにFさんは幼少の頃から競走馬にも興味があり、休みの日には帯広競馬場に行き、朝から晩までレースがある時は見ていたそうです。

そしてついに25才で念願の馬を持つ事にな

りました。

しかし自分の会社だけではまだまだ生計を立てるのは難しく、社長としても働きながら雇われ大工としても働いていたそうです。

社長として自分の会社を軌道に乗せる為、必要な時は頭を下げ、仕事を貰う事もあったそうです。Fさんは「あの時は大変だったけど、何でもしないと自分の会社の仕事がなかったからなあ」とふり返りながら言われていました。

26才の時には長男、31才で長女が生まれ、Fさんが守らなければいけない物も増えていきまました。Fさんは精一杯、父として社長として働きます。

大事な馬もレースに出れば勝つ時もあれば負ける時もありましたが、Fさんは

「馬には助けられた!仕事がない時でも馬が勝ってくれたお陰で何とかなつたよ」と笑顔で話され、家族と同じくらいに馬も好きな様子が伺えました。

仕事が軌道に乗ったのは35才の時です。そこからは自分の会社の仕事だけでも生計が立てられるようになり、奥様も協力してくれたお陰だとFさんは言われました。

家族の協力も得ながら仕事を続け、60才頃まで社長として前線で働かれました。その後は、競走馬の育成にも力を入れ、多い時は競走馬を10

頭も所有していたそうです。

そんなFさんは入居してからも競走馬は大好きで毎日のように競馬を見ています。自分の馬が走る時には眼差しも一層強くなり、勝負師の顔になります。

娘様との関係も良く、週末には必ず来られ家族の時間を過ごされています。いつまでもお元気で過ごし笑顔を見せてください。

## リクエスト

北島 三郎  
「ありがとう キタサンブラック」

## 理由

馬が好きだから共感できる

## 行事

### 第6回東雁来

### サマーフェスティバル

7月の27日、土曜日  
毎年恒例の東雁来サマーフェスティバルが開催されました。



直前まで天気が悪いのでは無いかと思われていましたが、蓋を開けてみると太陽サンサン光り輝く、とても良い天気となりました。おいらーくからは、ジャージャー麺、フルーツ、唐揚げ、豚串を提供させて頂きました。

豚串は前日の午後から、えくぼ東雁来の職員さんとともに肉を切り串に刺すこと3時間!

当日は2人がかりで、熱々を出したいと、黙々と焼き続け:

毎年人気なので、おひとり様4本までと制限させていただいたのにも関わらず、早々に完売いたしました。

食べられなかった皆様、本当に申し訳ありませんでした。

来年も皆様の喜ぶ顔をみるために、ひたすら、炒めて、ゆでて、揚げて、刺して焼きたいと思えます。

CoCo東雁来式番館 四宮 公子



おいらーく

# 8月行事内容と9月行事予定

## 令和元年 9月行事予定

## 令和元年 8月行事内容とイベント風景

令和元年 9月 行事 予定	せんり	○敬老会 ○考流学舎
	うらら伏古	○15日 敬老会
	COCO東雁来	○初旬 猫目さん衣料品販売会 ○10日 お茶の間喫茶ココよ ○11日,26日 訪問美容室
	東雁来式番館	○セブンイレブン訪問販売 ○余市果物屋さん訪問販売 ○敬老の日お祝い
	COCO元町 えくぼ元町	○外出行事 ○敬老会
	元町式番館 えくぼ&	○敬老会
	えくぼ東	○敬老会 ○おはぎ作り
	東苗穂 COCO	○お茶の間喫茶 ○十五夜 ○ワクワク広場
	ホーム グループ 夢	○敬老の日 ○十五夜 ○外出レク
	銭函 お散歩 カフェ	○7日,21日 趣味の会 ○18日 プリザーブド フラワー教室 ○27日 認知症カフェ【二胡】 ○30日 ローズウィンドウ

## 令和元年 8月 イベント風景

○元町サマーフェスティバル ○ビューティー ボランティア	
○15日 うらら盆踊り ○25日 きらら・うらら夏祭り ○28日 DTソナスセッション	
○6日 お茶の間喫茶ココよ ○9日,22日 訪問美容室 (金さん銀さん)	
○7日 花火大会 ○6,30日 セブンイレブンさん訪問販売 ○12,29日 余市の果物屋さん訪問販売	
○サマーフェスティバル ○ジンギスカンパーティー ○避難訓練	
○10日 第3区町内盆踊り ○11日 第3区町内仮装盆踊り ○21日 ビューティー ボランティア	
○盆踊り参加 ○七夕 (近所の子供たち来訪)	
○お茶の間喫茶 ○訪問隣の昼ご飯	
○七夕(ローソク出せ) ○盆踊り ○お誕生会	
○～10日 ちぎり絵展示会 ○3日、24日 趣味の会 ○21日 プリザーブドフラワー教室(ブーケ) ○25日 スズキアリーナチャリティイベント参加 ○29日 高等支援学校とコラボ企画	

## 経営方針

『高齢者も障害者も住み慣れた地域で、安心して暮らせる地域づくり』を目指し、つねに『ご利用者様の立場にたった総合的な介護・福祉企業』のあるべき姿を探究し続けるオンリーワン企業を目指します。